

# 教育の明向 21世紀を生きる 五輪教育編

来年度のオリエンピック・パラリンピック教育は都内の全校で展開されようとしています。私は大学卒業後30年間にわたり、航空会社の国際線を乗務して様々な国の方と接し、その言語・宗教・習慣・食文化・国民性の違いを目の当たりにしてきました。国籍・文化の違いのみならず、年齢、職業や障害の有無などを含めた多様性に応じて、「機内」という一つの空間の中でも多様な価値観を持つ人々と相対していくことは、時どし

てとても難しく感じることをお迎えすることになります。もありました。そのような経験を基に、現在、都内の小中高校、特別支援学校など、「グローバルマナー」とは、相手が何と言っているおもてなしの心」をテーマのか、唇を読んで言葉を認に講演をしていきます。識しようとする方もいらっしゃるかもしれませんね」という話から私の講演は始まります。

戴します。自己を確立しつつ、他者を受容して、臆せずに積極的に海外からのお客様をお迎えしてほしい、という願いを込めて、握手のルールで配慮した対応をすることとマナーの話もします。実際に「英語であいさつしながら笑顔で相手の目を見て握手をしましよう」と口一方は一律ではなく、相手によつて変わります。向き合った方がどういう方なのか、今何を欲しているかを察知して、細かいところまで配慮した対応をすることがおもてなしです」という学校の6年生が来賓を一人

・パラリンピックは見返りを求めるない対応で外国からいらっしゃる大切なお客様

そろつた分離れになり、子供たちもとても礼儀正しくなりました」とお手紙を頂

「おもてなしの心の表し  
うれしそうに左手を差し出  
していました。

本居宣長の心に響く



講演でおもてなしの心を子供たちに伝える  
＝筑波大学附属桐が丘特別支援学校で

ルプレーをします。幼稚園児や小学校低学年の児童でも恥ずかしがることなく、「ハロ」と言いながら元気な相手の手を握ります。

先日、肢体不自由の特別支援学校で「握手は右手でしましよう」という一般的なルールの説明をした後、右手に障害のある生徒に対し、「僕は右手が使えないと左手で握手するね」とにこやかに笑顔で握手すればいいのよ」と言つたら

ひとりお迎えし、杖を突いた方には靴を履き替える時に椅子を差し出す、近くの階段ではなく少し離れたエレベータに案内するなど個別に対応したことでのお客様からとても高い評価を得たと校長先生から喜びの言葉をいただきました。

礼節を重んじ、マナーを守り、助け合つて生活する国民性である日本の子供たちは、異文化を尊重しながら、他者を思いやるボラン

ティアマインドを醸成する  
ことはオリンピック・パラ  
リンピック教育のみなら  
ず、これから日本の教育  
にとつて極めて重要である  
と言えます。

グローバル人材の育成と  
は外国語を習得することだ  
けではありません。母国日  
本の文化を知り、それを外  
国の方々に正しく伝えるこ  
とができるとともに大  
いです